

学院時報

No.94

令和2年3月1日発行

聖ドミニコ学院

幼稚園・小学校
中学校・高等学校

〒980-0874
仙台市青葉区角五郎2-2-14
URL: <http://www.dominic.ac.jp>
TEL 022(222)6337
FAX 022(221)6203

北仙台幼稚園
〒981-0914
青葉区堤通雨宮町11-11
TEL・FAX 022(234)3615

「念(おも)う」

理事長兼中学校長 校長

小笠原朋之



先日、言葉遣い・礼儀作法に関して非常に厳しく、

口を酸っぱくなるまで指導する先生の話を読みました。その先生は、「言葉遣いや挨拶を厳しく言っているのは、思いやりのある人間になってほしいから。相手のことをちゃんと考えるには、言葉遣いや挨拶は自然と綺麗になるもの。思いやりがあるから人に優しくできて、時に厳しくその人のために何かしようと思うものなのだ。頭の良し悪しはどうでもいい。生徒たちに思いやりのある人間になってもらいたい。」と記されていました。

さて、今年も東京五輪・パラリンピックが開催されます。ふと、一九八四年に開催されたロサンゼルスオリンピックでの柔道無差別級決勝のことを思い浮かべました。山下泰裕選手(今年IOC委員に選出された)は二回戦で足に怪我をして決勝戦に臨みました。対戦相手は、エ

ジプトのモハマド・ラシユワン選手。足を引きずり、畳に上った山下選手。ラシユワン選手にとっては、怪我している足をせめれば金メダルです。しかし、相手の弱みにつけこまず、彼は正々堂々と戦いました。結果は、山下選手が押さえ込みで優勝しました。二人から伝えられたことは、人として生きるうえでの普遍的な価値を表す「真・善・美」ということです。

現代を象徴して先が見えない時代とかいわれますが、その中であって大切なことの一つに、「〇〇とは何か」ということを問うまなざしであり、もう一つは、「〇〇とは、どのようにすることか」というまなざしです。別な言い方をすれば、「生きるとは何か」であり、「主体的に学ぶとは、どのようにすることか」ということです。小難しい哲学のように思われますが、暴力によって尊い人の命が失われる時代、うわべだけを取り繕い、偽装に満ちた時代、結果だけが問われ、それによる責任の所在が曖昧にされ、誰も責任を取らない時代だからこそ、今を生きるわたくしたちにとって、今は死語となつた「真・善・美」を追究することとこの本質的な問いが大事だと考える昨今です。

全日本合唱コンクール 全国大会初出場 金賞受賞

合唱顧問 齋藤 朋枝

東京まで初の遠征、全国大会という場で団員誰一人体調を崩すことなく、四八人全員が元気に歌い切ったステージは、合唱団にとって忘れられない経験となり、子供たち、そして私の胸にも沢山の宝物が残った。

今年度は六年生が目標として掲げた「完全熟唱」を合言葉に、日々の練習を積み重ねた。暑い夏から、晩秋まで一つひとつのコンクールで響かせたドミニコハーモニーはどれもかけがえのないもの。季節の深まりとともに楽曲への思いも成熟し、歌声に成長が表れていく過程には何にも代え難い喜びがある。良い結果を目標に歌い続けても、最後に心に残るのは、受賞の満足感ではない。仲間と歌いかけたことへの感謝、自分達に足りないものを知り、それを次への糧とする意欲。全てが歌う情熱をもち続けたからこそ得られた宝物。そこには、沢山の方々の温かい応援があつたことを決して忘れずに、

「感謝は歌声で！」勇気と希望を届ける合唱を目指し、これからも子供たちとともに成長し続けたい。

★第六回卒業演奏会のご案内
令和二年三月八日(日)
十四時開演 学院聖堂にて

沢山の方々のご来場、心よりお待ちしております。

第三十一回
宮城県合唱アンサンブルコンテスト
ヴェリタスチーム 第一位

河北新報社賞
カリタスチーム 第三位
宮城県合唱連盟理事長賞
第十三回声楽アンサンブルコンテスト
全国大会

小学校・ジュニアの部 出場決定



聖書のこぼれ

「清い心で主を呼び求める人々と共に、正義と信仰と愛と平和を追い求めなさい。」
(テモテへの第一の手紙二章22節)

「先生、ライブはいかがでしたか。」
ライブ? 確かに前日の一月二五日、私は教皇フランシスコのミサに参列するため、特別休暇をいただいて東京ドームに出かけた。

教皇様のミサはすばらしく、その笑顔と一挙手一投足にお人柄と神の慈しみがにじみ出ていた。日本では少数派のカトリック信徒が集まり、仏教徒の方も多数折りを共にして下さり、「すべてのいのちを守るために」のテーマにふさわしくミッションスクールの学生たち、障害を持つ方、被災地の方々、冤罪とおぼしい方、外国人労働者の方たちとの会場の一体感も格別であった。

その後、多くの方から「ニュースを見ました。教皇様の言葉には力がありますね」と耳にした。

イエスの言葉には弟子たちを清くする力がある。そして、人間の中に神の望みを願う祈りの心を生み出すと言われる。みことばが私たちの心に響き続けますように。

中学校高校副校長 Sr. 柚木 洋子

幼稚園

運動会

令和元年度初めての運動会はとても良いお天気の中幕を開けました。テーマは、「新しい時代へ〜ドミニコの花を咲かせよう〜」と掲げ、子ども達一人一人が自分の力を最大限発揮できるようお願いを込めました。まずは、元氣いっぱい行進し、沢山の方に見守られながら嬉しさと緊張を噛みしめ入場！かけっこでは満三・年少児の可愛らしい姿から、年中・長児になるにつれて力強い走りへと変わっていき、成長の段階が見られました。年限毎の種目でも一人一人が遺憾なく力を発揮し、微笑ましい姿・心をついに真剣に取り組む姿等、様々な様子に感動を覚えました。また、保護者競技も目を見張るものがあり、みんなで協力して真剣に参加して下さる姿は圧巻でした！最後には、みんなで大きな花を咲かせ、今日一日頑張った子ども達にはメダルとカップが送られました。子ども達の笑顔と共に今年も無事に運動会を終えることができました。



七五三祝福式

十一月十三日秋晴れの良い天候の中、北仙台幼稚園と合同で「七五三祝福式」が行われました。司祭のイ・ソク神父様のもと温かな雰囲気が始まり、子ども達の成長の喜びをお祝いしました。神父様から神様についてのお話や心も体も大きく成長できた事についてお話を頂き、子ども達も集中して聞くことができました。お話の後は、祝福を一人一人にして頂き、おメグイやキールホルダーのプレゼントを園長先生から頂きました。プレゼントには十字架やマリア様の御絵が描かれており、素敵なプレゼントを頂いてとても嬉しそうなお姿が見られました。聖堂に響き渡る子ども達のお祈りや歌声がとても綺麗で北仙台幼稚園の園児と共にお祝いができ、よい時間となりました。いつも沢山の方々に支えられているおかげで大きく成長できている事に改めて気づき、今後でも感謝の気持ちをお忘れずに元気に過ごしていけたらと思います。



聖劇

十二月十四日にクリスマスマズ礼拝会、第二部聖劇を行い、多くの家族の方に見守られる中でクリスマスマズイエスの誕生の意味を全園児で表現し、皆で喜び祝う事ができました。この日を迎える四週間の待降節では、神様がイエス様を下された意味を絵本や聖歌等を通して子ども達と考え、心静かに祈る時間を大切にして心の準備をしてきました。子ども達は日々の幸せに感謝しながら、自分にできる善い行いを周りの人に優しい心で実行し、互いにその喜びを味わい、聖劇の練習の中でも友達の間を褒め励まし合う姿が見られました。そして各々が自分に与えられた役割を意識して取り組み、日々楽しさが増していく中で自信にも繋がりが、大好きな家族に喜びを伝えたい気持ちが強まってきました。当日、子ども達は緊張しながらも心は嬉しさに溢れ、自分の力に自信をもって演じることができ、達成感を感じていました。聖劇を通して、誰もが幸せな空気に包まれた時間だったでしょう。



幼稚園生活を振り返って

奈良南都美
カレンダーマーチが開くころと、卒園までもう間もなく。未就園児クラスからのドミニコ幼稚園で過ごした日々が思い出されてきます。初めて親元を離れての集団生活に不安そうな顔で登園していた年少の春は、今でも忘れられません。年中の頃にはお友達との関わりも増え、幼稚園が大好きになりました。年長になると念願のお泊り保育をはじめ、運動会、聖劇と、仲間と力を合わせる素晴らしさを経験しました。お仕事にもより意欲的に取り組み、努力を続ける大切さを学びました。このように先生方に導いていただき過ごした毎日が、心を育て、大人へ向けての第一歩となる基礎になりました。また、子ども達に接する先生方の姿を見て、私も子育てをする上で大切な事を学ばせていただいたと感じております。本当にありがとうございました。



北仙台幼稚園

発表会

年少

「三匹のこぶた」の絵本を基に、可愛いこぶたに変身して劇を行いました。始めに満三歳児が鈴を持ってダンスを踊り、劇を盛り上げてくれました。年少児は台詞だけでなく、歌も楽しみながら発表する事が出来ました。最初は沢山のお客様を前に緊張している様子が見られましたが、劇が進むにつれて少しずつ表情も和らぎ、練習時のように自信を持って最後まで演じきる事が出来ました。役決めの際には譲り合う姿が見られ、成長を感じた場面がありました。また、皆で一緒に練習する内に仲間意識が芽生え、以前より子どもたち同士で関わる姿が増えました。

今は年中に向けて、「出来る所は自分でする」を目標に頑張っています。発表会で学んだ事を活かして活動に繋げて行きたいですね。



年中

年中児は「かさじぞう」の劇を行いました。初めてかさじぞうの紙芝居を読んだ時、子どもたちは、お地蔵様の「じよいやさー」という掛け声で大盛り上がり！劇の中の台詞にもその掛け声を取り入れました。

子どもたちはそれぞれ自分の役を大切に思いながら、元気に楽しく練習に打ち込んでいました。台詞を覚えるだけでなく、ステージの上での動きも役によって異なる為、難しい所もあったと思います。しかし最後まで諦めずにお友達と協力しながらやり遂げる事が出来ました。劇の練習を通して、失敗を恐れず挑戦するという行動力や自信が身につく、様々な事に積極的に取り組む姿がより多く見られるようになりました。年長に向けて、思いやりの心を持ち、自分の気持ちを伝える事が出来るよう頑張ります。



年長

練習を始める前に、クリスマスはどんな日なのか、イエス様はどのようにご誕生したのかをお話を聞いたりと絵本を見て理解し、一人ひとりが自分の役に責任を持って練習に取り組む事が出来ました。時には、恥ずかしさや不安で上手く出来ない事もありましたが、皆で心を一つに合せて頑張った素晴らしい劇を保護者の皆様に見て頂く為に、一生懸命練習をしていました。本番では沢山のお客様を前に緊張している姿も見られましたが、堂々と大きな声で役に取り組む事が出来ました。保護者の皆様も成長を感じられたのではないのでしょうか。

聖劇を通して学んだ思いやりの心、最後まで諦めない心を忘れずに小学校でも頑張りたいと思います。



おもちつき会

十月十七日におもちつき会を行いました。今年も夢見る老止(おとめ)の館のおもちつき隊の皆様が来てくださり、サポートをしてくださりました。打ち出の小槌を持って踊る「大黒舞」というお祝いの踊りを見せて頂き、子どもたちも一緒に踊って沢山お祝いをしました。

天気が悪く、室内でもちつきを行う事になりましたが、子どもたちは順番に杵を持ち元気いっぱいのかげ声と共におもちをついていました。するとおこわからおもちに変わっていく様子に「すごい」と興味津々。「おもちはこの風に出るんだ」と理解したようでした。お昼はホールに集まって出来立てのおもちを頂きました。皆でついたおもちはとても美味しくて、おかわりの列に沢山並んでいました。心でも体でも味覚でもおもちつき会を楽しむ事が出来ましたね！



感謝めぐり

十一月八日・十二日に感謝めぐりを行いました。二十三日の「勤労感謝の日」を前に、日頃お世話になっている近隣の方々に感謝の気持ちを伝えるに行きました。八日は年長児が「北警察署」「北仙台駅前郵便局」「JR北仙台駅」「天野内科」へ、十二日は年中児と年少児が「青葉消防署」を訪問させて頂きました。

どの場所へ訪問しても、皆様がとても温かく迎えて下さり、いつもより少し緊張した面持ちの子どもたちも気持ちや和らいでいました。「いつもお仕事をしてくれて、ありがとうございます」という感謝の言葉とプレゼントをお渡しするととても喜んで頂けて、子どもたちもとても嬉しそうでした。

勤労感謝の日は「勤労を尊び、生産を祝い、国民互いに感謝しあう日」として制定されました。自分たちが沢山の人々に支えられている事に感謝する心を忘れずに、そしてその気持ちも伝えられると良いですね。

お忙しい中、子どもたちを優しく迎えて下さった皆様、本当にありがとうございます。今後共々よろしくお祈り致します。



成長

三宅 恵子
年長児が初めて体操の時間にリレーを教えていた日だったのでしようか。

降園後の園庭遊びの時間に、遊具のブロックをパトーンに見立てて、年長児で相談しながらリレーをやるうとしていきます。しかし、クラス毎にやりたい子、全員でやりたい子、意見が対立しとりあえずスタートしてみても何だかうまくいきません。泣き出したり怒り出したりして最後までできずに終了となりましたが、年少児の頃はまだまだ個の世界で遊んでいた子供達が、三年間という月日の集団生活の中で、大きく成長したことを感じる場面でした。

いろいろな行事やお友達との遊びやけんかを通して、楽しい・嬉しい・悔しい・悲しいなど自分や相手の様々な気持ちを知ることができたことと思います。

深い愛情でご指導してくださった先生方に見守られ、大きく成長した子供達。幼稚園で育まれたこの気持ちは、これからの日々の支えとなることでしょう。ともに成長の時間を過ごしていただいた全ての方々とのお会いに感謝いたします。

小学校

合唱団の活躍

二〇一九年十一月三日、第七十二回全日本合唱コンクール全国大会が東京で行われました。本校の合唱団が創立されて以来、初めて全国大会に出場となりました。

「全国大会で得たもの」

六年 川本 ひな子
ドミニコは初の全国大会ということもあり、家族、友達、先生方、皆に見送られて仙台を出発しました。

全国大会では、歌う前から既に学ぶことがありました。例えば、挨拶。他の学校の子は声も大きく、自分からしていたが、私たちにはそれが足りない気がしました。また、歩き方にも気を付けたいと思いました。今後は、宮城県の代表で出場しているという責任とプライドをもった振る舞いができるようにしていきたいと思いました。もちろん、悪い事はばかりではなく、良い事もありました。新幹線や電車の中、ホテルの中では場にに応じて、静かに行動できました。また、バスでの移動の際に朋枝先生から「相手とたたえ合うことが大切だ」ということも教わりました。確かに他校も全国大会に向けて頑張っていると思うし、お互いにこの舞台までこられたことをたたえ合うこ

とが大事だと思いました。そして、「相手を敬う気持ち」は、いつ何時も忘れてはいけないことです。歌だけを磨いていくのではなく、人間性も磨いていきたいし、下級生にも磨いていって欲しいと思います。

歌い終わると、私達合唱団は、たくさんの人に愛されていると感じました。もし、私達が愛されていない存在であるならば先生方も必死に教えてはくれないし、引率も引き受けてはもらえないでしょう。きっと、保護者の皆さんも、お弁当を作ったり、送迎したり、応援に来てくれたりはないと思います。そして、これまで先輩方が頑張って積み重ねてきたことが、今回の金賞として形に表れたのだと私は考えています。こんなに応援して下さいいる方々に、私は歌声で感謝を伝えていきたいです。

全国大会は終わったけれど、まだまだ感謝を伝える場面は残っています。反省を生かしながら、集大成の卒業演奏会、そして卒業まで、完全熱唱を貫いていきたいです。

「良い顔、良い声、良い姿勢。歌えることに、ありがとう」この『モットー』をいつも心の中心に。

「全国大会で学んだこと」

五年 今野悠太郎

合唱団の夢だった全国大会が終わりました。歌い終わった時、僕は今年の目標であった「完全熱唱」が本当にできたのだら

うかと考えました。

まず、四十八人全員でステージに上がったことは嬉しかったです。ほくは、緊張しながらも、正確な音で最後まで丁寧に歌いかけたことは良かったと思います。しかし、その後に聞いた岩手県黒沢尻北小学校の、全員の気持ちが伝わってくる演奏に驚きました。ほくたちの演奏は、聞いている人たちの心を動かせるほど、情熱や思いが溢れていたのかと言われると、自信がありません。

これからは、もっと歌に対する情熱や思いを強くして、次の大きな舞台では後悔のないような演奏ができるように、日々努力していきたいと思っています。たくさんの方の事が学ぶことができた一日でした。



さつまいも収穫、スイートポテト作り

二年生は春に植えたさつまいもを収穫し、スイートポテト作りに挑戦！おいしく出来上がりました。

さつまいも収穫

二年 熊谷 来希

いろいろな形のさつまいもがとれました。かんさつしてみたら、にんじんのようなさつまいもやたまねぎのようなさつまいももありました。さつまいもをしゅうかくするのはとても楽しかったです。

スイートポテト作り

二年 鈴木 和

みんなの力とお母さんたちの力でおいしいスイートポテトを作り、六年生もよろこんでくれてうれしかったです。白ぜんにかんしゃしたいです。

6年生にも食べてもらいました

六年 神宮 宗一郎

とってもおいしかったです！口に入れたとたんにまろやかな味が口いっぱいになりました。またスイートポテトが食べたくなりました。

六年 松田 環

スイートポテト、とてもおいしかったです。甘さも焼き加減もちょうどよかったです。ありがとうございます。



後援会・OB会杯ミニ駅伝大会

本校では、毎年十一月にミニ駅伝大会を開催しております。自分のタイムを締め、チームの勝利に貢献しようと、体育の授業や、休み時間の「駅伝がんばろう週間」に一生懸命取り組んできました。



三年 大藤 優音

私は、体育のペース走ではあまり上手にペースをつくる事ができていなかったなと思います。河川敷で二回目の一二〇〇メートルのタイムを計ったときに限界まで走ったせいで、三回目は二回目よりも順位を落としてしまいました。不安な中の本番でしたが、腕を振って一生懸命走りました。

がんばろう週間では、お休みした日もありませんでしたが、チームのためにがんばって走ることができたと思います。

本番の駅伝大会、私たちのピンクチームは最下位でした。でも、六年生のキャプテンの人が結果発表の前にあった振り返りの時間に、「一位でも最下位でも、頑張った

ならチームとしては勝ち。」と言ってくれたので、結果を聞いたとき悔しかったけれど、「来年も頑張ろう。」と思うことができました。

三年 申 湊

今年のミニ駅伝大会は、自分との戦いになりました。

わたしは走るのがあまり得意ではないので、「出たくない」という弱い心と、頑張りたいという心がぶつかりました。ずっと迷っていましたが、家族や先生に応援してもらい、最後は「頑張りたい」という心が勝ち、ミニ駅伝大会に出ることができました。

本番ではずっと不安でドキドキしていましたが、走っているうちに、次の友達にタスキを少しでも早く渡したい気持ちで頑張って走ることができました。

走った後はとても気持ちよかったです。ミニ駅伝大会に参加してよかったと思います。

今年練習に参加できない日もあったので、来年はもっとたくさん練習して、今年よりも速く走れるようになりたいです。



「ハンド・イン・ハンド」

待降節の「痛む愛」の実践として始まったユニセフ募金。今年度のテーマは「すべての子供に生きるチャンスを」でした。全校生ができることとして家庭で募金活動を行い、一年生と六年生は学院内でも募金活動をしました。一人一人、募金することや世界の子供たちの現状を学習することを通して、自分たちにできることを考えました。

四年 松本 孔一郎

改めて学校に行くのが当たり前ではないと思った。授業に集中し参加できることに有難みを感じたいです。

四年 柴田 里彩

日本では、当たり前前のが当たり前前にできることを知りました。これからは、リサイクルや節水、食べ物を残さないなどができると思います。一日でも早く笑顔が戻りますように。

五年 山根 志道

毎日しっかり勉強をして、学校へ行けない子供たちが学校に行ける発明をする。

五年 渡辺 愛夏

ユニセフによって「笑顔」が生まれる。二十年后にはユニセフの活動を伝えるために学校の先生になって「苦しく大変な子供たちもいるけど、ユニセフによって笑顔が増えた」ということを伝えたい。

日ごろから平和について考えることが大切だと思った。そのために喧嘩をしない。自己中心的ではなく、相手のことを考えることができると思う。そのような心の輪が広がれば世界全体が平和になると思った。

六年 眞木 泉

ハンド・イン・ハンドは世界中の子供と手をつなぐことが実践できるものだと思う。将来世界のために尽くすことができるように勉強や生活態度を身につけることだと思う。



中学校

中学校の一年を振り返って

中学校主任 大坂 康寛



孟子の言葉に、「その小を養うものは小なり、その大を養うものは大人たり」という言葉があり、目先の小さな欲望を大切にすることは小者であり、心という根本的に大きな物を大事にするものは大きく成長する、大事なものは心の鍛錬であるということです。

中学校では生活の中で友達どうし、互いに悩み合い、様々なことに基づきながら人間性を大きく成長させました。また、部活動は勿論、文化的行事、色々な作品での受賞など、自分の力を十二分に伸ばし、未知の力を探り、可能性をおおいに伸ばすことができた一年となりました。

「蓄え続けた笑顔」

三年A組担任 小野 景子



割と大人しい印象の人でした。そう、一年生の時までは。美味しい給食のレポートをからかい合うようになったのはいつからでしたっけ？知らないじゃない！と言われ、夜な夜な携帯を開く私も私ですけれど(笑)

責任感が強く頼もしく、しっかり者の人。課せて求めた五のことは、いつも十になるまでやり遂げてくれました。屈託なく笑うみんなを見ているといつも元気をもらいま

す。そんな関係に触れるのが毎日のわたしの癒しでした。

「卒業」という終わりのかたちは、同時に始まる新しいスタートをさします。みなさんなら大丈夫です。胸にひそかに抱く、今はまだ蓄の「夢」を追いかけて、一歩ずつ前進していつて下さい。：なあって、格好良く締めたいけれど、あんなに笑い合った教室を離れるのはやっぱり少し寂しいですね。沢山の思い出をありがとう。

三年間で培われたもの

三年A組 御澤 音巴



私の中学校教育を一言で表すと、「協育」でした。協力することの大切さを培ってくれたのは二つの活動です。

一つ目は、生徒会です。生徒会では、学校行事をより良いものにするために話し合い、役割分担を決めます。しかし、人手不足で予定通りにならないことが多く大変でした。それでもみんなで協力し、やり遂げた時の充実感、今でも忘れられません。

二つ目は、やはりクラス活動です。笑い声の絶えない教室。にぎやかで個性的な皆。七人のクラスメイトとの出会いは宝物です。毎年熟成されていく人間関係。いつも温かく見守ってくれる先生方。行事を通して、絆は深くなりました。少人数というドミニコ中学校ならではの環境のおかげだと思います。

高校生になっても中学校三年間で培ってきた協力することを忘れずに引き続き実践していきたいです。



職場体験を終えて

二年A組 佐々木瑛舞



十一月十三日～十五日の三日間、職場体験で青葉区中央市民センターへ行きました。最初に市民

センターの仕事や活動について説明してもらいました。センターには施設業務と生涯学習事業があり、私は生涯学習事業のことを初めて知りました。

施設を見学した時は、思っていたよりも広がったので驚きました。センターでは講座企画書の作成、発表、市民センターだよりの配布準備や施設点検の仕事など、さらに地域の人の講座などの活動を体験しました。講座企画書作成の発表は、センターの人達がたくさん聞きに来たので、とても緊張しました。センターだよりの配布準備では、それぞれ配る枚数が違うので、間違わないように気を付けました。施設点検では、確認することや注意することがたくさんあって大変でした。講座活動体験では地域の人達がどんな活動をしているのか知ることができて楽しかったです。

今回の職場体験で青葉区中央市民センターへ行って、私の知らない仕事がたくさんあることや、地域の人の関わりが大切だということを知ることができました。



活躍するドミニコ生

【聖トニコ学院中学校】

- 第六十八回宮城県中学校総合体育大会 剣道競技
 - 女子団体 第一位 【全国大会出場】
 - 女子個人 第一位 山下 紗知 【全国大会出場】
- 令和元年度第四十三回東北中学校剣道大会
 - 女子個人 第三位 山下 紗知
- 令和元年度第六十九回仙台市中学校英語暗唱大会兼高田宮杯全日本中学校英語弁論大会
 - 仙台市予選大会
 - 暗唱の部 奨励賞 3年 内田愛梨佳
 - 第六十六回仙台市児童生徒理科作品展
 - 部長賞 3年 剣持 燈
 - 令和元年度仙台市中学校新人大会
 - 剣道競技 青葉区一年女子個人 第三位 伊藤 レナ
 - 第一回宮城県年金ボスコンクール
 - 優秀賞 3年 庄司 心優
 - 宮城県中学校体育連盟
 - 剣道専門部
 - 優秀選手 3年 菊地 彩加
 - 優秀選手 3年 剣持 燈
 - 優秀選手 3年 庄司 心優
 - 優秀選手 3年 山下 紗知
 - 優秀選手 3年 山下 紗知
 - 全国納税貯蓄組合連合会・国税庁主催中学生の税についての作文
 - 優秀賞 3年 剣持 燈
 - 二〇一九仙台市下水道フェア第三十四回「児童生徒絵画コンクール」
 - 実行委員会優秀賞 1年 菅原のどか
 - 二〇一九年度 校内読書感想文コンクール
 - 最優秀賞 3年 御澤 音巴
 - 佳作 2年 佐々木冬乃
 - 佳作 1年 藤嶋 楓
 - 令和元年度仙台市市の輪を広げる作文コンクール
 - 中学生部門
 - 優秀賞 2年 佐々木冬乃
 - 令和元年度仙台市障害者週間のボスターコンクール
 - 中学生部門
 - 優秀賞 2年 大野くるみ
 - 令和元年度仙台市ジュニアリーダー1年初級講習会
 - 修了 1年 藤嶋 楓
 - 仙台一中学区児童生徒善導協力会
 - 令和元年度
 - 社会を明るくする標語
 - 最優秀賞 2年 山田 真歌
 - 優秀賞 3年 御澤 音巴
 - 優良賞 1年 藤嶋 楓
 - 令和元年度仙台市小中学校図画工作美術合同展
 - 入選 2年 大野くるみ
 - 2年 山田 真歌

高 校

修学旅行だより

中 学 校

「修学旅行の思い出」

三年A組 内田 愛梨佳
 私達中学校三年生は、十二月十日から三泊四日で伊勢・奈良・神戸などを巡る修学旅行に行きました。

一日目はハブニングがあったため、伊勢神宮の内宮だけを見学しました。日本の歴史や伊勢神宮の決まりを知ることができました。

奈良の自主研修では道に迷った時に、地域の方々に優しく教えていただきました。見ず知らずの私達にも、優しくしていただいたことがとても嬉しかったです。

神戸では、夕食と共に船上

『長崎修学旅行』

私たち高校二年生は、仙台空港を出発して大浦天主堂を訪れました。紙で作られたロザリオの展示が強く心に残っています。

原爆資料館では、被爆された方の手記があり、心が痛みました。展示品の中には実際に手に触れることができるものもあり、原子爆弾の恐ろしさをより強く感じました。また、自主研修では、長崎を象徴する場所を回りました。特に眼鏡橋は、小さい頃から行ってみたかったのが感動しました。

ハウステンボスでは、一面の花や風車がとても素敵で、外国にいるかのように思えました。

で生演奏を聴くことができました。美しい夜景と共に生演奏は格別でした。

今回修学旅行では伊勢・奈良・神戸の歴史や人の温かさに触れることができ、とても楽しかったです。また、修学旅行は私達三年生にとっては中学校生活最後の行事となり、最高の思い出にすることができました。この経験を忘れずに、今後の生活に活かしていこうと思います。



十二月十日から三泊四日の修学旅行は、それぞれが思い出に残るものとなりました。

コース別研修の思い出

《特別進学コース》ペーロン体験が特に印象に残っています。全員で「一、二、三」とかけ声を合わせて船を漕ぎ進めていくことが楽しかったです。

《幼児保育進学コース》長崎伝統のハタを作って揚げる体験が印象に残っています。初めての体験だったので、とても楽しかったです。

《キャリアデザインコース》海きらら水族館のバックヤード見学、佐世保の歴史を聞きながら佐世保バーガーを堪能しました。

◆修学旅行委員(学院時報担当)◆
 特別進学コース 工藤 千桐(広瀬中出身)

幼児保育進学コース 内田 美空
 平田 育美(山下中出身)

キャリアデザインコース 楠 夏穂
 (聖ドミニコ学院中出身)
 (南光台中出身)



【聖ドミニコ学院高等学校】

- 第五回仙台大学心池会杯争奪剣道大会 高等学校 女子 第一位 剣道部
- 二〇一九年度ジャパンカップ個人 高校生バントワーリング 一・二年の部 第八位 2年 清野 絢花
- 第五十二回仙台市少年剣道錬成教室大会 高校生女子の部 第一位 剣道部
- 宮城野書人界学生展 創文印刷出版賞 3年 山田 優唯
- 第四回宮城地区学生いけばな競技会 団体 準優勝 華道部
- 第四十一回仙台市私立高等学校女子バレーボール秋季大会 レシーブ賞 2年 宮鹿野涼花
- 仙台市民総合体育大会 バレーボール 高等学校の部 第三位 バレーボール部
- 宮城県高等学校体育連盟剣道専門部 功労賞 3年 浅野 詩奈
- 令和元年度 宮城県高等学校新人大会 女子個人 第三位 2年 岩井 南美
- 女子団体 第二位 剣道部
- 東邦書道会主催 第六十二回全国書道展覧会 特選 2年 清野 絢花
- 二〇一九年度 校内読書感想文コンクール 高校の部 最優秀賞 1年 佐藤 由果
- 優秀賞 2年 杉山依々羽
- 佳作 1年 羽根田千佳
- 佳作 2年 鈴木 文菜
- 佳作 2年 柴田 唯
- 令和元年度紅花旗旗高等剣道大会 女子団体 第一位 剣道部
- 女子最優秀選手賞 2年 内田 美空
- 第四十五回全日本バントワーリング選手権東北支部大会 ソロストラット 女子シニアI部門 第一位 2年 清野 絢花
- ソロトワール 女子シニアI部門 第二位 2年 清野 絢花
- 第八回創作絵本・紙芝居・デジタル絵本コンテスト 中学・高校生の部 特別賞 2年 鹿股あさひ
- 中学・高校生の部 佳作 2年 西野 絢花
- 中学・高校生の部 佳作 2年 清野 絢花
- 中学・高校生の部 佳作 2年 清正 碧
- 中学・高校生の部 佳作 2年 高橋 優蘭
- 中学・高校生の部 佳作 2年 山崎 彩音
- 第四十三回高等学校剣道選手権大会 優勝 剣道部
- 優秀選手賞 宇佐美萌香

高等学校

贈る言葉「挑戦しよう」

三学年主任 三年二組担任 田嶋 智子



平成が終わりと令和が始まった。あの震災から十年目が始まるとうとしてある。あと十年したら今ある職業の多くが必要とされないと言われ、AIや介護ロボットが耳目を集める今、若い人たちが身につけるべき力は何かのだろうかと思えさせられる。

ドミニコでの生活を振り返った時に、生徒たちは何を思い出すのだろうか。上手くいった楽しかった出来事を思い出すのだろうか。もちろん、あらゆる場面で私たち教職員は、生徒たちが失敗しないように助言し、励ましてきた。大丈夫、上手くいくよ、と応援し続けた三年間だった。しかし、高校生活で本当に体験して欲しかったことは、失敗しないことではなく、むしろ失敗することだった。

失敗が多いほど良い高校生活だったのではないかと思う。失敗を避けるのではなく挑戦することを、失敗を恐れるのではなく立ち向かっていくことを経験して欲しかった。高校生活で失敗したこと、悔しかったことを心に刻んで欲しい。挑戦して上手くいかなかったら、反省してもう一回挑戦すればいい。目標を変えて違うことに挑んでもいい。

挑戦しよう。失敗しても大丈夫だということをお忘れしないで欲しい。失敗した経験が挑戦する心を支えてくれる。卒業おめでとう。



三学年担任から

三年一組の皆さんへ

三年一組 担任 鈴木 伸



卒業おめでとうございませう。三年一組の皆さんの担任を三年間務めることができ、有意義な時間を過ごすことができました。

毎日のショートホームルームや学校行事、些細なトラブルはたくさんあったかもしれないが、今となっては忘れられない大事な思い出となつていきたいと思います。私の中で忘れられないのは運動会、二年生の時には私がドミニコに勤めて初の総合優勝。三年生の時も総合優勝し二連覇。決して運動部の多いクラスではなかっただけに、うれしさが込み上げてきたことを昨日のこのように思い出します。一人一人の個性を考えた適材適所の種目選び、そしてクラスが団結し全力を尽くした結果だと思えます。

四月からはそれぞれ歩んでいく道が異なってきましたが、失敗を恐れずにそれぞれの進路でチャレンジし続けてください。運動会で優勝できたときのように、得意・不得意があっても皆さんが持っているタレントを互いに共有し理解していけば、必ず成果につながります。進む道が異なってもこのドミニコの三年間で学んだことを活かし、皆さんがさらなる成長をすることを願っています。

「何事にも時がある」

三年三組 担任 伊藤 崇



ご卒業おめでとうございませう。皆さんとは、授業では一年生より関わらせていただき、昨年度からはキャリアデザインコースの担任としても関わらせていただきました。思い返してみると、皆さんと過ごすこと

できたこの三年間は本当に楽しく、そのため時間の経つのが非常に早く感じました。そんな愛しい皆さんに、「旧約聖書」の一節に沿って、今の思いを伝えたいと思います。「何事にも時があり、天の下の出来事には全て定められた時がある」(「旧約聖書」「コヘレトの言葉」第3章 1節)とありますが、これは、この世の全ての出来事にはそれぞれにふさわしい時期と意味があるのだ、ということです。

たとえば、皆さんがこのドミニコ学院に入学したこと、新しい友人ができてうれしかったこと、様々な行事等で頑張ったこと、一生懸命勉強して成績を伸ばしたことで、三年間活動が続けて活躍したこと、進路目標の実現に向かって努力したこと、そして学校に行くのが億劫に思ったときにも、朝早い電車やバスに乗って通学したことなど。こうした皆さんの三年間の出来事には、それを行うにふさわしい時期と意味があったのです。そして、そうした出来事を通して、皆さんは少しずつ、確実に成長しました。

卒業後の皆さんの人生に、沢山のお恵みがあることを心より祈っております。そして、皆さんに出会えたことを本当に感謝しています。

「過去から未来へ」

三年四組 担任 戸田 兼博



皆さん、ご卒業おめでとうございませう。私は、昨年度からドミニコに就任して、まだ二年も経っていませんが十分すぎるほど濃い生活を四組の担任として過ごさせてもらいました。とても静かなクラスですが、「やるときはやる」という四組スタイルがありました。少人数のクラスなので運動会・ドミニコ祭・球技大会などのイベントでは準備や役割分担で多くの苦勞をしましたが、実際、本番になると周りと一致団結して最後までやり遂げ成功させていたことは、担任として誇らしく思います。

皆さんにお願いしたいことがあります。それは人との縁に感謝することです。もちろん、人と接するからには様々な感情が出てきます。「だって人間だもの」という有名な言葉がある通り、好き・嫌いという感情は出てくるのは仕方がないのです。大事なものは、そこから得られる知識や技術、コミュニケーションなのです。その経験があれば、もし壁に当たった時に活かせる事ができますから、一つ一つの経験を積み重ねて自分自身を成長させてください。これから皆さんが、今まで学んだ事とこれから学ぶ事を活かして、更なる飛躍とご健康をお祈りしています。

ドミニコ学院での三年間

三年二組 晴佐久杏莉



私は、三年間聖ドミニコ学院で過ごし、本当に多くのことを学びました。三年間で多くの方々に出会い支えられ、とても成長することができたと思います。ここまで成長することができたのは今まで関わって下さった方々のおかげです。

私が高校生活の三年間で学ぶことができたのは、最後まで頑張ることの大切さです。私の高校生活での目標は、勉強をしっかりすること、何事にも責任を持ち様々な事に挑戦すること、ことでした。

それぞれの目標を達成できるように、今自分に出来ることをしっかりと考えそれを行動に移し、様々なことに挑戦することを意識して取り組みました。難しい事ばかりで辛い時もありましたが、友人に支えられ三年間で沢山の事に挑戦でき勉強もすっかりすることができました。最後まで頑張つてよかったと強く思います。

このように最後まで頑張ったのは、いつもそばにいてくれた友人や沢山のことを教えて下さった先生方、一番近くで支えてくれた家族のおかげだと思います。今の私がいるのはこの方々の支えがあったからです。本当にありがとうございます。

この聖ドミニコ学院で出会った人と、沢山の経験が出来た事は私の宝物です。これからみんながそれぞれ自分の選んだ道を歩んでいきますが、それぞれの道で活躍されることを願っています。

各コースの1年を振り返って

特別進学コースの

二学期を振り返って

特別進学コースリーダー 阿部 博子

二学期以降の進路行事における特進コース生の様子を紹介します。一年生と二年生の二学期は「進研模試振り返り会」から始まり、ここで多くの生徒たちが一気に現実に引き戻されました。講師の先生からは苦手科目克服のコツを教えてくださいました。

十月には一年生と二年生全員で「夢ナビライブ」、全国から百十九校の大学が

一堂に会しての合同進路ガイダンスに参加。会場の夢メッセは東北各地から集まった大勢の高校生の熱気に包まれ大混雑、人口密度が低い学院で普段穏やかに過ごす生徒たちにとっては大変な刺激となったようです。模擬授業や学問研究紹介プレゼンなど、それぞれの興味関心に合わせて参加してきました。

一年生は十一月に初めてのGTEC受検を経験、英語四技能テストの洗礼を受けました。二年生は十二月に受検、順調にスコアを伸ばしています。

三年生はいよいよ本格的な受験シーズンを迎え、一月十八日十九日にセンター試験を受験しました。この学院時報が発行される頃には、特進コース生らしく最後まで粘り強く頑張り続け、前期二次試験、私立一般受験がひと段落していることでしょう。



今年度の幼児保育

進学コースを振り返って

幼児保育進学コースリーダー

佐藤 正久

今年度の幼児保育進学コースは、東北放送の安東アナウンサーによる「絵本の読み聞かせ」講座や仙台幼児保育専門学校の吉村先生による「造形表現技術」講座で保育技術に磨きをかけたり、公立黒川病院小児科医・岩城先生による講演「幼児虐待やドメスティック・バイオレンスが生まれる現代社会

を考える」で愛着障害の問題を学び、ルワンダの教育を考える会代表・永遠瑠マリルイズさんをお迎えしての講演「ルワンダの悲劇から学ぶ教育の大切さ」でグローバルな視点を持ちながら子どもにとっての教育の意義を考えました。



また、幼児保育コース独自の学校設定科目や放課後のピアノレッスンをはじめ、系列幼稚園での保育体験学習なども、さらにブラッシングアップした活動を行うことが出来ました。

「キャリアとは？」

キャリアデザインコースリーダー

及川 俊浩

キャリアの語源は「轍(わだち)」と言われています。すでに誰かによってつくられた轍を進んでいくことはある意味楽かもしれませんが、社会に出れば自分で轍をつくらなければならないことが多くなると思われれます。そのような時に少しでも困らないように、社会で活躍されている方々を講師として様々な教えを受ける授業が「ドミニコ

の森」です。今年度は、二年生は職業についてあるいは社会について学ぶ講座としました。進学を考えている生徒もいますので、東北文化学園に協力していただき、キャンパスに移動して学ぶ機会がありました。



三年生は入試に必要な面接の受け方等を様々な方から教えていただきました。また働くということからどのようなことなのか、企業の経営者や人事担当の方にもお話ししていただきました。



令和二年三月卒業生の進路状況

(令和2年2月19日現在)

【大学合格者】25名

仙台白百合女子大学(4)・東北福祉大学(3)・宮城学院女子大学(3)・尚絅学院大学・東北学院大学(2)・東北文化学園大学・東北生活文化大学・東北文教大学(2)・三育学院大学(2)・上智大学・清泉女子大学・玉川大学・東京家政大学・立正大学・日本薬科大学

【短期大学合格者】3名

聖和学園短期大学(2)・青葉学院短期大学

【高等看護学校】1名

仙台徳洲会看護専門学校

【専修学校・各種学校合格者】26名

仙台幼児保育専門学校(7)・仙台こども専門学校(6)・東北文化学園専門学校(2)・仙台ECO動物海洋専門学校・仙台YMCA国際ホテル製菓専門学校・仙台医療秘書福祉専門学校・仙台カフェ&スイーツ専門学校・仙台総合ビジネス公務員専門学校・仙台総合ペット専門学校・仙台リゾト&スポーツ専門学校・仙台理容美容専門学校・東京法律専門学校仙台校・東北動物看護学院・東北電子専門学校

【就職内定者】4名

スマイルモーターズ・ツルハドラッグ・いたおろしMountain・東北・学校法人聖ドミニコ学院

()内の数字は複数合格

喜びの春を前に

小学校校長 土井 智子



卒業・進級を目前に控えたこの時期は、とてもワクワクする季節です。厳しい寒さに耐えた草花や樹木が、一斉に芽吹き始めます。

三学期の始業式に、子供たちに、一年で一番寒い二月になぜ学校はあるのだから

教皇フランシスコ来日を迎えて

森本 幸子



昨年十一月下旬に教皇フランシスコが三十八年ぶりに来日なされた事は、皆様も記憶に新しい事と思います。幸いな事に私は、十一月二十五日に東京ドームで行われた教皇ミサに参列する恵を頂きました。「すべてのいのちを守るため」という教皇来日テーマの基、ミサ中、英

祈り

北仙台幼稚園 齋藤 潤子



私たちの仕事は毎朝「子どもたちが今日、出会うであろう色々な出来事が神様のお恵みと祝福のうちにありますように」との祈りから一日が始まり、すべての事に感謝して一日が終了します。

人は、いつどのような時祈るのでしよう。多くは、人知を超えた出来事や困難に出会った時・悲しい時苦しい時で、嬉しい時は感謝の祈りをつい忘れてしま

うと問いかけました。チューリップなど、春に花壇を彩る花の球根は十一月頃に植えます。寒い季節を地中で過ごさないと、きれいに咲くことはないそうです。シンガポールに桜を持ちかえって植えてみたら、二年目から花を咲かせることはなかったという話を聞いたことがあります。南の国に冬はありません。桜は厳しい寒さに耐えて、春に美しい花を咲かせます。

私たちにも同じことが言えるのかもしれませんが、つらい経験や、耐え難い思いは、一見すると悪いことだけのように思

語・ベトナム語・韓国語・タガログ語・スペイン語と多くの言語で共同祈願が唱えられ聖歌が歌われました。そこには教皇様の深い慈しみの心、平和を願う心が流れていたと感じました。又、経済的、物質的に恵まれないが、いのちの意味が分からず、自分の存在意義を見出せない若者たちについて語られました。

さらに、「わたしたちの地球のための祈り」の中で、「この地球上で見捨てられ、忘れ去られた人々を救い出すため、わたしたちを助けて下さい。世界を食うのではなく、守るために。汚染や破壊ではなく、美の種を蒔くためにわたし

がちです。しかし、本来なら与えられているいろいろなお恵みに感謝して祈る。平和のために祈る。誰かのために祈るといふようなことが先なのだろうと思

えますが、乗り越えることで優しくもなれるし、相手を思いやれる人へと成長もできます。できないと思えることを繰り返し練習し、達成できることもあります。どんなことの中にも、導きがあると信じて進むことで、道は開かれていきます。

それぞれが美しい花を咲かせる季節が、そこまで来ています。さあ、希望をもって進んでいきましょう。

たちのいのちを癒して下さい。貧しい人々地球を犠牲にし、利益だけを求める人々の心に触れて下さい。...と祈られています。この様な教皇様の思いに私たちはどの様に向き合い取り組む事が出来るでしょうか。

今、与えられている恵みに気づき感謝できる心、世界的視野で小さい人々に寄り添える心、足りないものは何か考え、解決していく力を子ども達が自ら培っていけるよう願います。そしてモンテッソーリを行う者がその育成に心を尽くしていけますようにと祈ります。

「競争力や生産性を追いかけてばかりだと、日常生活で感動したりする感性が失われてしまう。他者と共存していく人生を喜ばずに、心の鼓動は止まってしま

「競争力や生産性を追いかけてばかりだと、日常生活で感動したりする感性が失われてしまう。他者と共存していく人生を喜ばずに、心の鼓動は止まってしま...」などと、三十八年前にはなかった「経済戦争」に対しての警鐘の言葉を加えて述べられていました。

ドミニコ学院で過ごして

高校三年生保護者 山川美恵子



六年前聖ドミニコ学院中学校を知った時、この学校なら人目を気に

してばかりの娘が生き生きと過ごせるのではないかと直感し入学させる事を決めました。そして今、その直感は現実となり娘はのびのびと学校生活を楽しみ卒業を迎えます。

しかし最初はあまりの少人数に戸惑いはありました。けれども最初の運動会、体調を崩し参加出来ず涙ぐむ娘を一生懸命励ましてくれる先輩の姿に迷いは吹き飛びました。その後も生徒会活動やバトン部で中学だけではなく高校の先輩方にも優しくリードしてもらい、娘の学校生活はどんどん広が

とはいえ、年頃の娘たちです。トラブルがない訳ありません。しかし、それを乗り越えるなかお互いの個性を長所も短所も認め合うという事を自然と身につけている事に小さく驚いたものです。これが少人数の良さなのであり、またドミニコの穏やかでどこかの人びりした空気のお陰かもしれないとも思うのです。

最後に、娘と仲良くしてくれた中高のクラスメイト、優しく接してくれた先輩達、可愛い後輩さん、そして娘を指導してくださった先生方、かけがえない六年間をありがとう、ございました。

寂しい卒業

高校三年生保護者 山田みゆき



聖ドミニコ学院の幼稚園・年中から、小学校・中学校・高等学校と

十四年の月日を過ごしてきました。長いようであつという間の十四年で、一人っ子で人見知りのある娘なので、はじめは不安いっぱいでしたが、すぐに学校に馴染み、友達も出来、先生方や学院の皆様のお陰で高校まで楽しく伸び伸びと充実した学校生活を過ごすことが出来たと何より嬉しく思っております。雨の日も、また大雪でスクールバスが遅れた時にも雪まみれになりながら歩いてバス停まで行きました。「どんな時も学校は休まない」は高校卒業まで続けてきました。

そんな毎日の学校での様子を話してくれる日々も終わるのかと思うと、卒業が益々寂しくなります。ふと私の母が私の高校卒業の時、玄関前のマリヤ様にお陰様で卒業出来ましたかと挨拶していたことを思い出しました。

私も同じ気持ちでそれ以上に十四年分の感謝をして卒業したいと思

